

小中一貫教育の施設の在り方に関するアンケート調査※1(追加集計結果)

問※2	調査項目	小中連携、一貫教育校ごとに集計 【前回部会において提示】	小中一貫教育校における学校規模ごとの集計
問1-2	施設一体型校舎の小中連携、小中一貫教育の校数	○	
問3-1	小中連携、一貫教育校の設置経緯	○	○
問3-2	施設一体型校舎の整備理由	○	○
問3-3	施設一体型校舎の整備手法	○	○
問4-1	学校施設整備方針の検討体制	○	○
問4-2	学校施設整備方針の検討メンバー	○	○
問5	施設一体型校舎の校地計画	○	○
問6-1	学校運営における小中連携範囲	○	
問6-2	施設一体型校舎における運営面での工夫	○	
問7-1	学年区分(ステージ)	○	○
問7-2	学年区分(ステージ)に関する施設計画上の配慮	○	
問8-1	小・中学校で共有化を図った施設(室)	○	○
問8-2	小・中学校で共有化した施設(室)での実施教科	○	
問8-3	新たに追加したスペース	○	○
問8-4	特別支援学級(教室)の配置計画	○	○
問8-5	異学年区流を行う施設(室)	○	○
問8-6	意図的に異学年交流を行う施設(室)と内容	○	
問8-7	地域交流を行う施設(室)	○	○
問8-8	部活動の円滑な実施のための施設面での工夫	○	
問9	職員室の座席配置	○	○
問10	施設一体型校舎の教育上の効果	○	○
問11-1	施設一体型校舎を整備した際の課題	○	
問11-2	今後の施設一体型校舎を整備する際の課題	○	○

※1 小中連携、一貫教育の導入を目的として施設整備を行い、平成18年4月から平成25年5月までの間に開校した施設一体型校舎の公立小・中学校(131校)を対象に、平成25年度に実施したアンケート調査(平成25年5月1日時点)。

※2 問1(学級数など学校概要)、問2(敷地面積など建物概要)は省略。

施設一体型の小中一貫教育校における学校規模ごとの集計

28学級以上	13校
10～27学級	29校
9学級以下	37校
<hr/>	
合計	79校

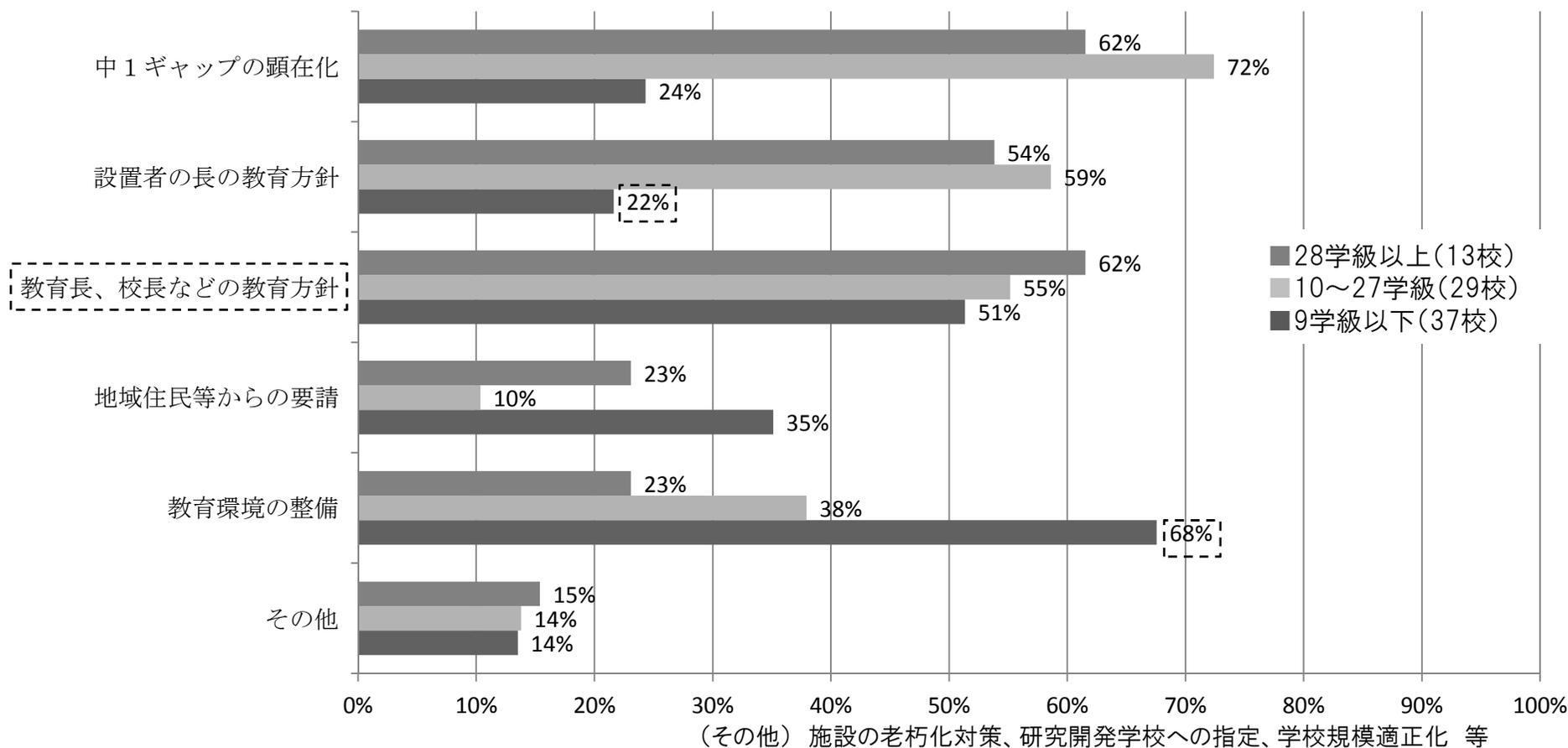
注) 学校数は、小中一貫教育を実施している施設一体型の小・中学校を1校として計上

【問3-1】小中連携、一貫教育校の設置経緯

小中連携、一貫教育校を設置する経緯(きっかけ)は、どのようなことですか。(複数回答可)

- 1 不登校の増加や学力・学習意欲の低下など中1ギャップの顕在化
- 2 設置者の長(市町村長)の教育方針
- 3 教育長、校長などの教育方針
- 4 地域住民等からの要請
- 5 教育環境の整備(少子化、市町村合併等を契機としたもの)
- 6 その他

●設置経緯について、学校規模にかかわらず「教育長、校長などの教育方針」が約5～6割を占める。9学級以下の学校では、他の学校規模と比べて「教育環境の整備」の割合が大きい反面、「設置者の長の教育方針」の割合は小さい。

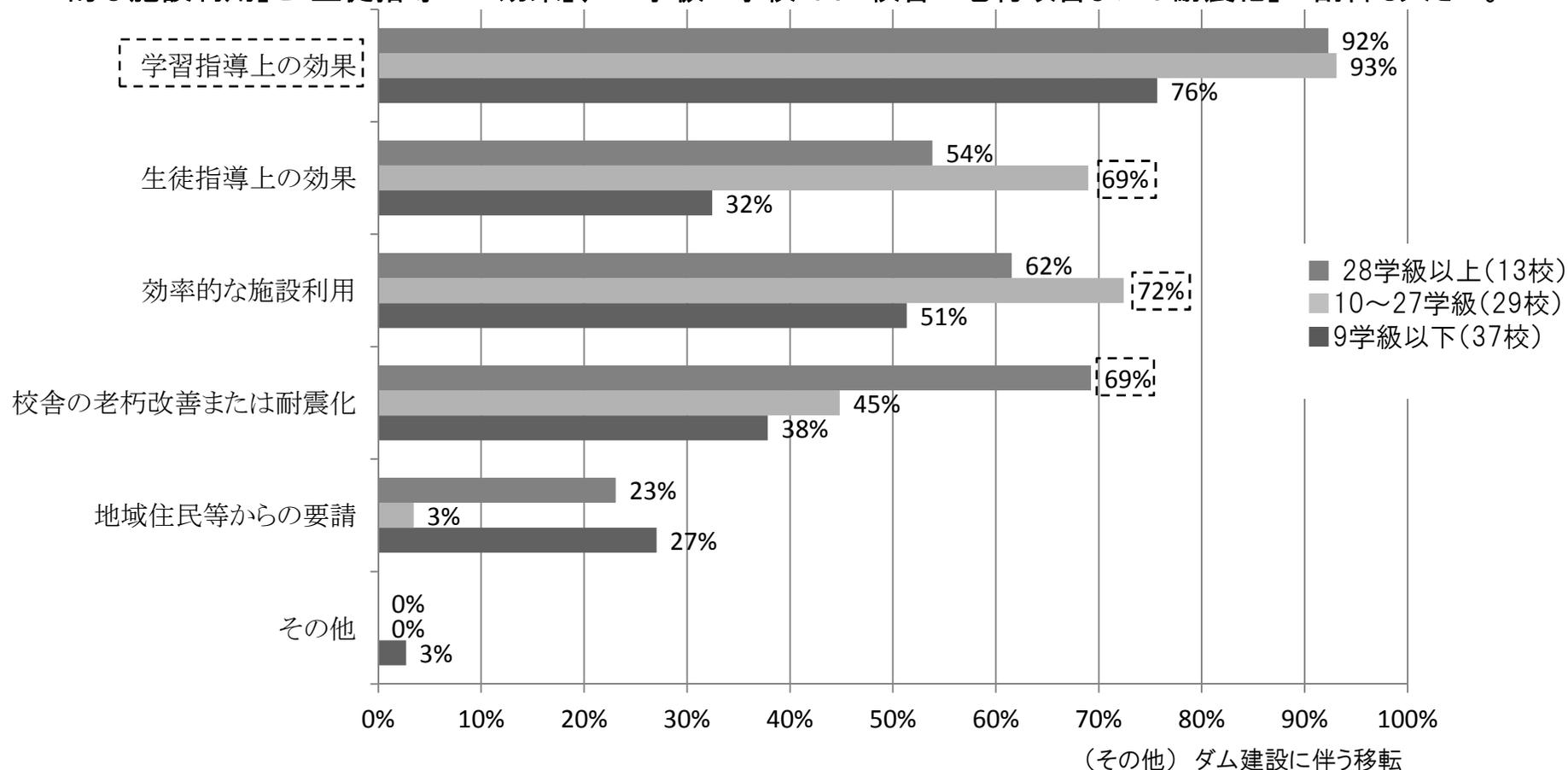


【問3-2】 施設一体型校舎の整備理由

小中連携、一貫教育校の校舎を、施設一体型校舎に整備することとなった主な理由は何ですか。(複数回答可)

- 1 ステージ(学年区分)や異学年交流など学習指導上の効果をあげることを重視
- 2 生徒指導上の効果をあげることを重視
- 3 効率的な施設利用を重視
- 4 小・中学校の校舎の老朽改善または耐震化の必要
- 5 地域住民等からの要請
- 6 その他

●整備理由について、学校規模にかかわらず「学習指導上の効果」の割合が大きい。10～27学級の学校では「効率的な施設利用」と「生徒指導上の効果」、28学級の学校では「校舎の老朽改善または耐震化」の割合も大きい。



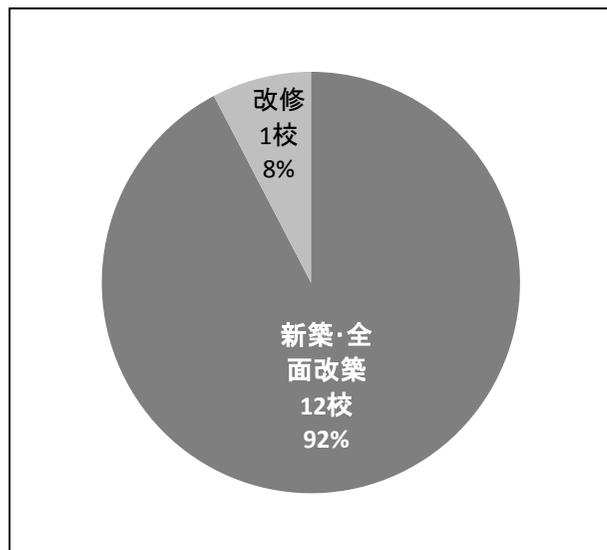
【問3-3】 施設一体型校舎の整備手法

施設一体型校舎の整備手法についてお答えください。

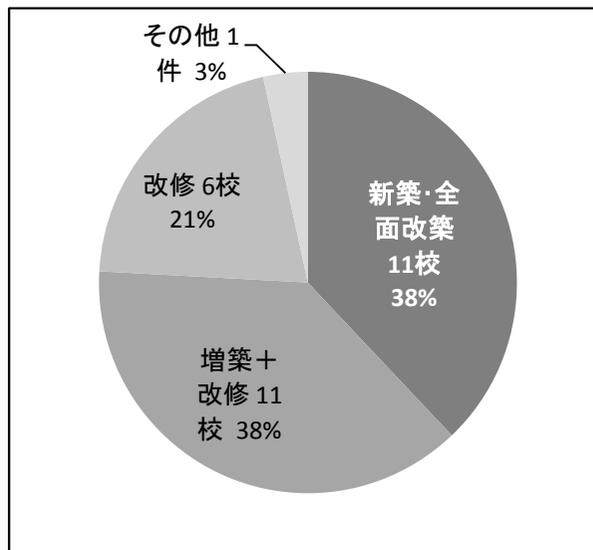
- 1 小中連携、一貫教育の導入に当たり校舎を新築、又は既存校舎を全面改築
- 2 小中連携、一貫教育の導入に当たり既存校舎に増築+改修
- 3 小中連携、一貫教育の導入に当たり既存校舎を改修
- 4 小中連携、一貫教育の導入に当たり施設面での整備は実施していない
- 5 その他

●整備手法について、28学級以上の学校では、「新築・全面改築」が約9割を占める。その他の学校規模では、既存施設の活用（「増築+改修」と「改修」）が約6割を占める。

28学級以上(13校)

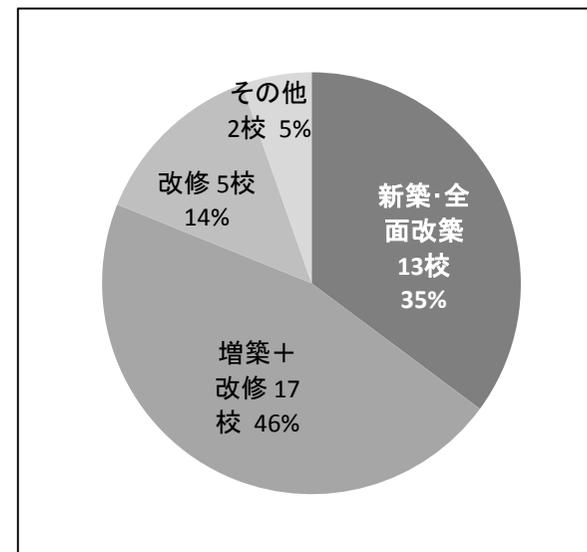


10~27学級(29校)



(その他)「連絡橋の設置」

9学級以下(37校)



(その他)「渡り廊下の設置」2校

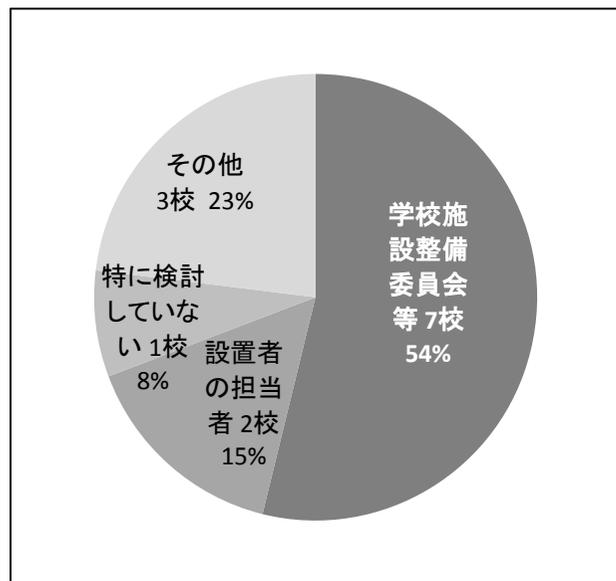
【問4-1】 学校施設整備方針の検討体制

小中連携、一貫教育校の学校施設の整備方針などについて、検討していますか。

- 1 学校施設整備委員会等を設置して検討
- 2 設置者(市町村)の担当で検討
- 3 特に検討していない
- 4 その他

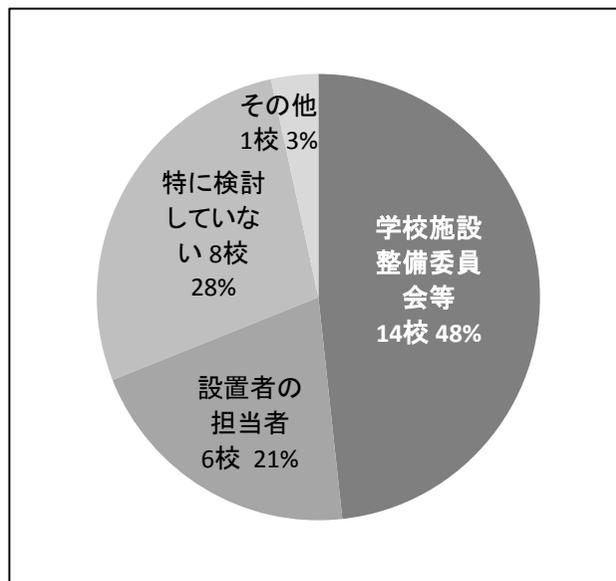
●検討体制について、学校規模にかかわらず「学校施設整備委員会等を設置して検討」が約5割を占める。9学級以下及び10～27学級の学校では、28学級の学校と比べて「特に検討していない」の割合も大きい。

28学級以上(13校)



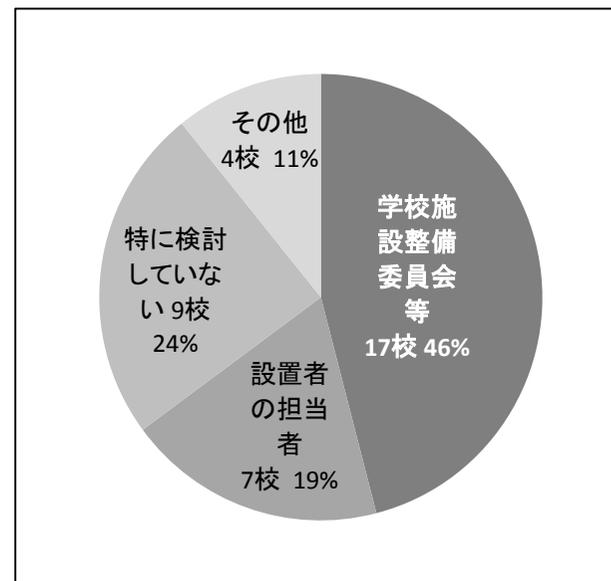
(その他)「学校施設整備委員会等」「設置者の担当者」の両方:2校、「既存の協議会」:1校

10～27学級(29校)



(その他)「学校施設整備委員会等」「設置者の担当者」の両方:1校

9学級以下(37校)



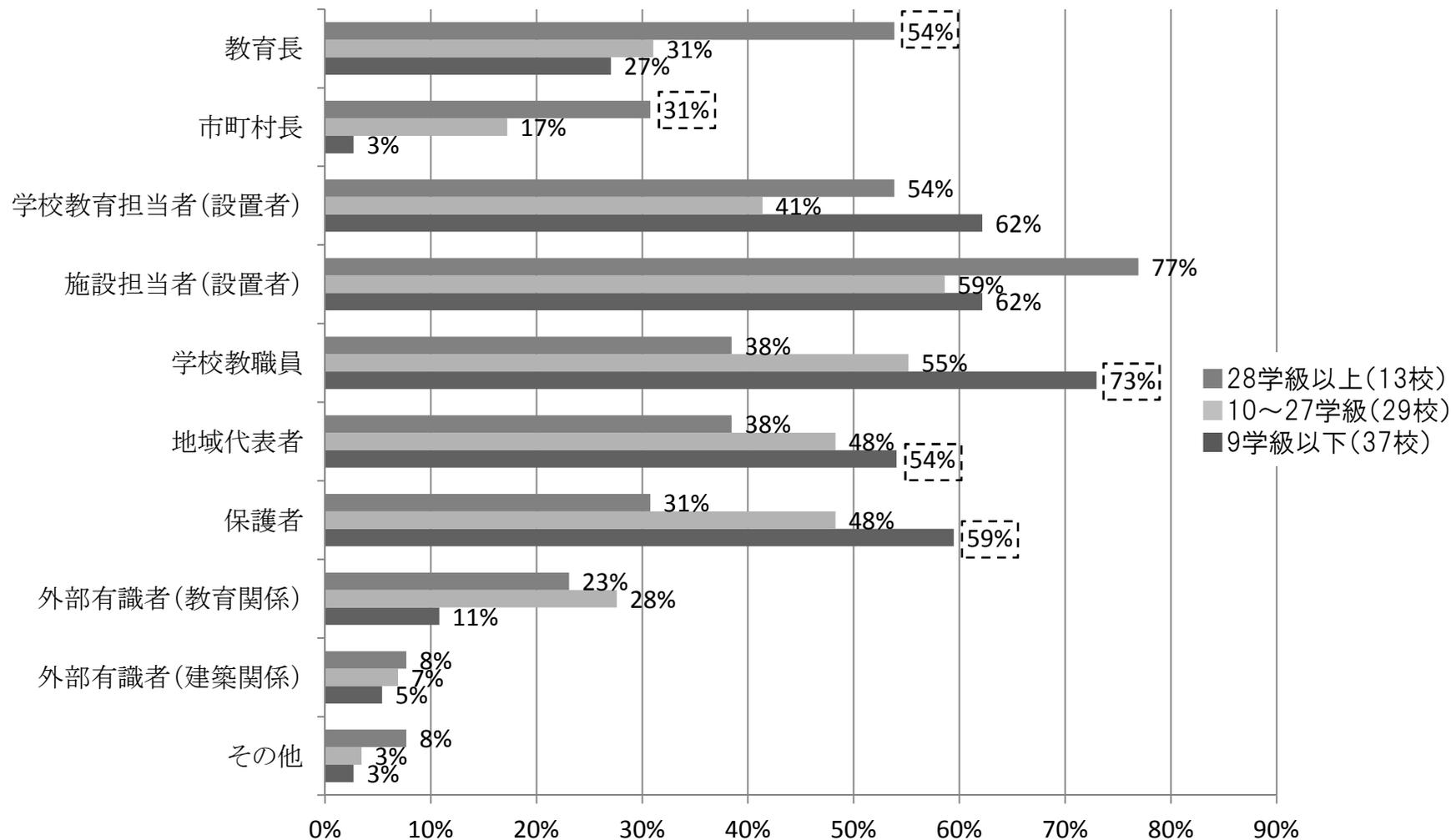
(その他)「既存の審議会」1校、「審議会による市長への答申」1校、記載なし:2校

【問4-2】 学校施設整備方針の検討メンバー

前の問の1、2と回答された方のみ、お答えください。検討メンバーは誰ですか。(複数回答可)

- 1 教育長 2 市町村長 3 学校教育担当者(設置者) 4 施設担当者(設置者) 5 学校教職員
6 地域代表者 7 保護者 8 外部有識者(教育関係) 9 外部有識者(建築関係) 10 その他

●検討メンバーについて、28学級以上の学校では、他の学校規模と比べて「教育長」、「市町村長」の割合が大きい。9学級以下の学校では、他の学校規模と比べて「学校教職員」、「保護者」、「地域代表」の割合が大きい。



(その他) 市議会議員、設計事務所、教育委員長

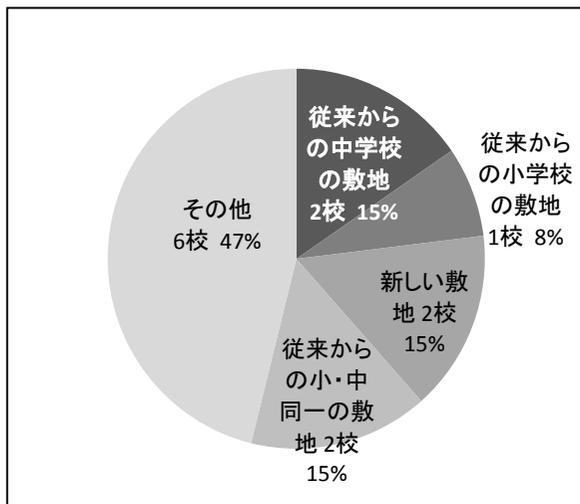
【問5】 施設一体型校舎の校地計画

施設一体型校舎の小中連携、小中一貫校の整備は、どのような敷地で整備されましたか。

- 1 従来からの中学校の敷地
- 2 従来からの小学校の敷地
- 3 新しい敷地
- 4 従来からの小・中同一の敷地
- 5 その他

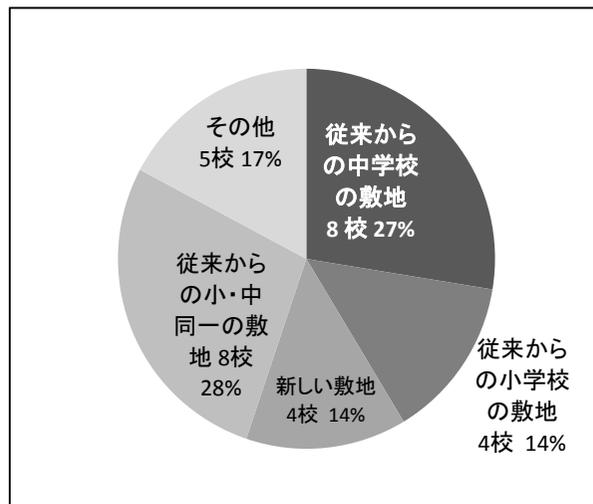
●校地計画について、9学級以下の学校では、「従来からの中学校の敷地」が約5割を占める。10～27学級及び28学級以上の学校では、9学級以下の学校と比べて「新しい敷地」、「隣接地の購入」の割合が大きい。

28学級以上(13校)



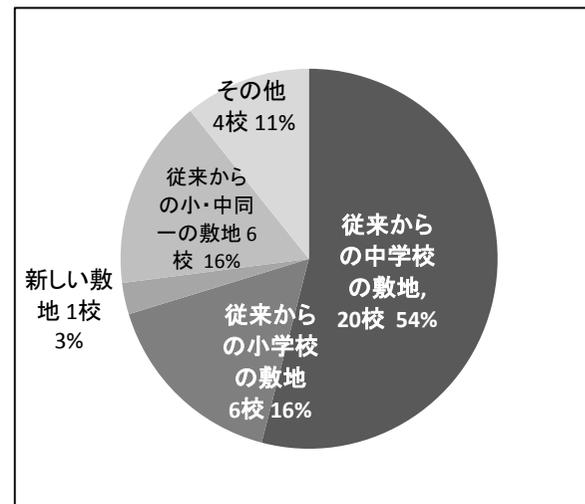
(その他)「隣接地の購入」4校、
「従来からの小学校及び中学校の敷地」2校

10～27学級(29校)



(その他)「隣接地の購入」3校、
「従来からの小学校及び中学校の敷地」2校

9学級以下(37校)



(その他)「隣接地の購入」2校、
「従来からの小学校及び中学校の敷地」1校
「公園の敷地を活用」1校

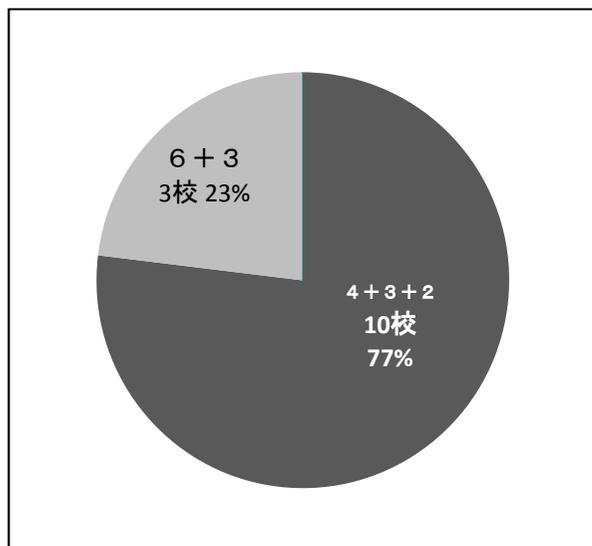
【問7-1】 学年区分(ステージ)

校舎の教室の配置計画、ステージ(学年区分)は、どのようにしていますか。

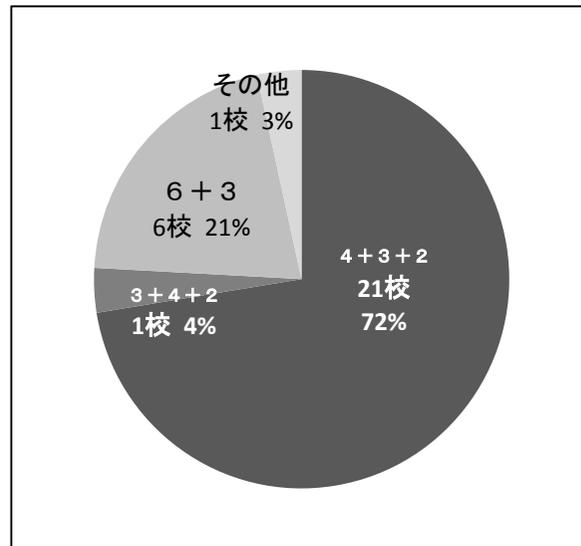
- 1 4+3+2
- 2 3+4+2
- 3 5+4
- 4 6+3
- 5 その他

●学年区分(ステージ)について、学校規模にかかわらず「4+3+2」が6～8割を占める。次いで「6+3」の割合が約2割を占める。

28学級以上(13校)

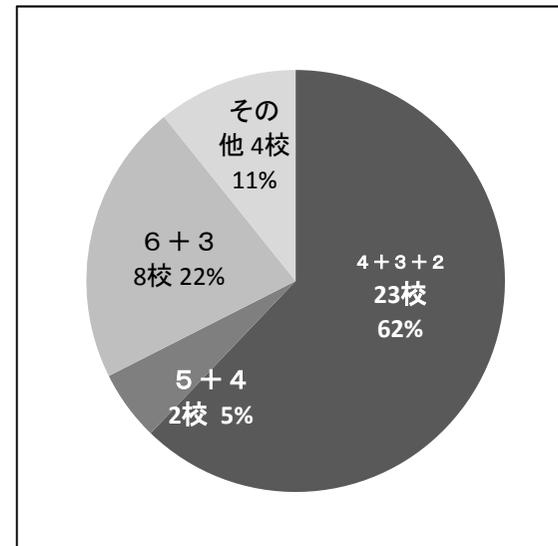


10～27学級(29校)



(その他)「2+2+2+3」1校

9学級以下(37校)



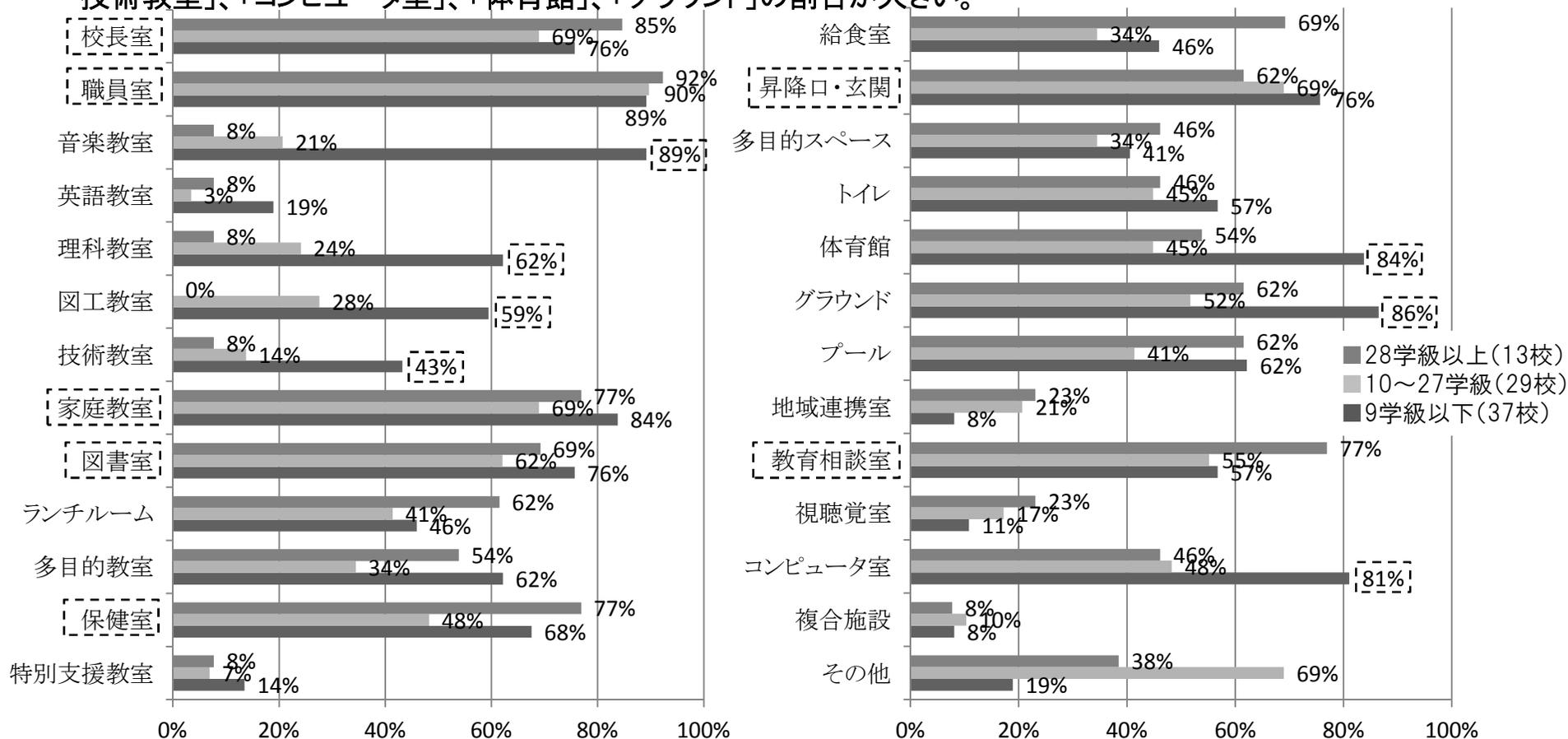
(その他)「4+2+3」3校、「2+7」1校

【問8-1】小・中学校で共有化を図った施設(室)

施設一体型校舎としたことで、小・中学校または低・高学年等で共有化を図った施設(小学校と中学校でそれぞれ専用の音楽教室がある場合などは該当しません。)は、どれですか。(複数回答可)

- 1 校長室 2 職員室 3 音楽教室 4 英語教室 5 理科教室 6 図工教室 7 技術教室 8 家庭教室
 9 図書室 10 ランチルーム 11 多目的教室 12 保健室 13 特別支援教室 14 給食室
 15 昇降口・玄関 16 多目的スペース 17 トイレ 18 体育館 19 グラウンド 20 プール 21 地域連携室
 22 教育相談室 23 視聴覚室 24 コンピュータ室 25 複合施設(複合施設名:地域図書館、文化ホールなど) 26 その他

●共同利用する施設(室)について、学校規模のかかわらず「校長室」、「職員室」、「家庭教室」、「図書室」、「保健室」、「昇降口・玄関」、「教育相談室」の割合が大きい。9学級以下の学校では、「音楽教室」、「理科教室」、「図工教室／技術教室」、「コンピュータ室」、「体育館」、「グラウンド」の割合が大きい。



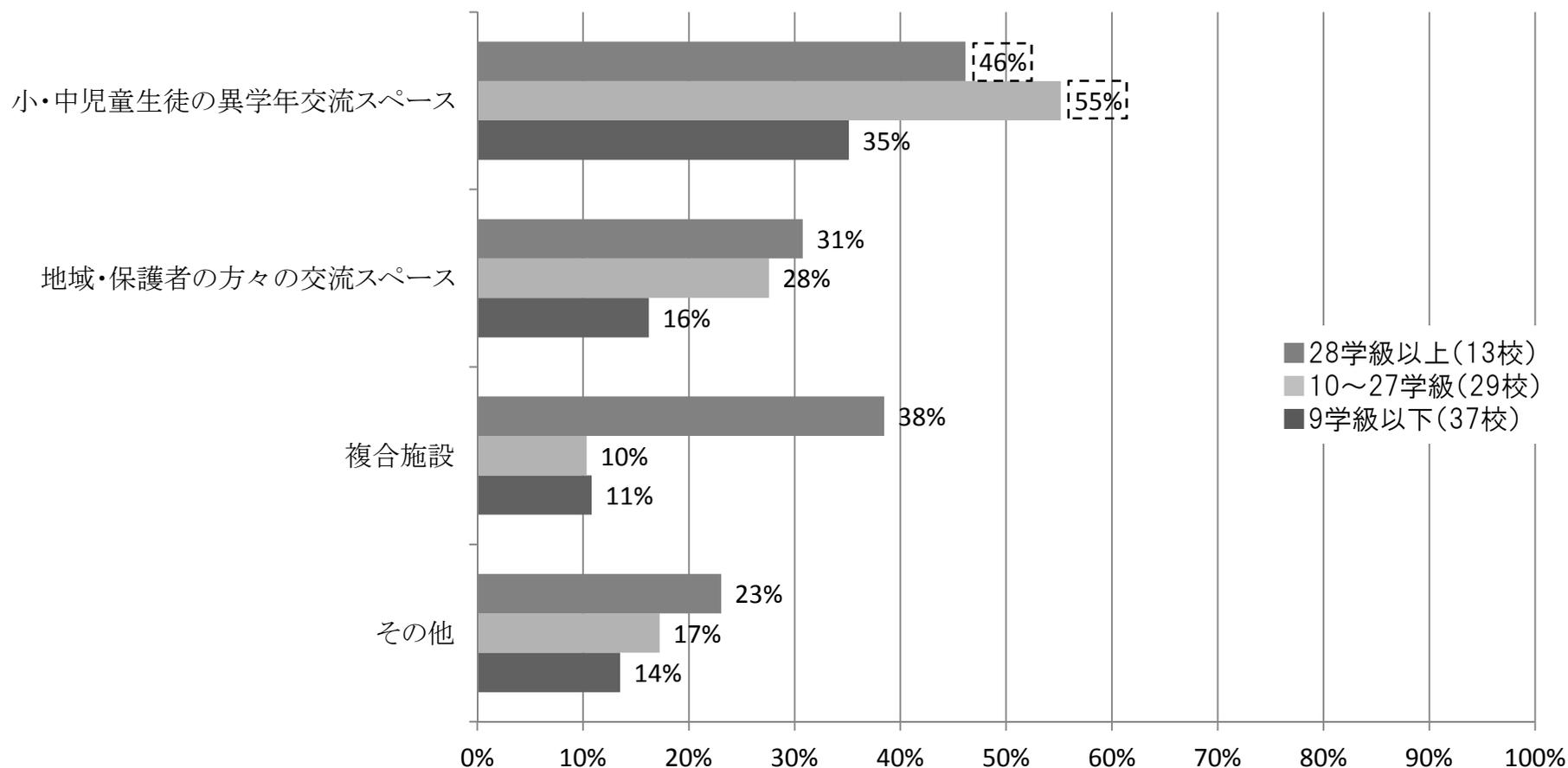
(その他) 国語科教室、社会科教室、児童生徒会室 等

【問8-3】 新たに追加したスペース

施設一体型校舎としたことで、新たに追加されたスペースや施設・設備は何ですか。(複数回答可)

- 1 小・中の児童生徒の異学年交流スペース
- 2 地域・保護者の方々の交流スペース
- 3 複合施設(複合施設名:地域開放プール、図書館など)
- 4 その他

●新たに追加したスペースについて、10～27学級及び28学級以上の学校では、「小・中児童生徒の異学年交流スペース」が約5割を占める。



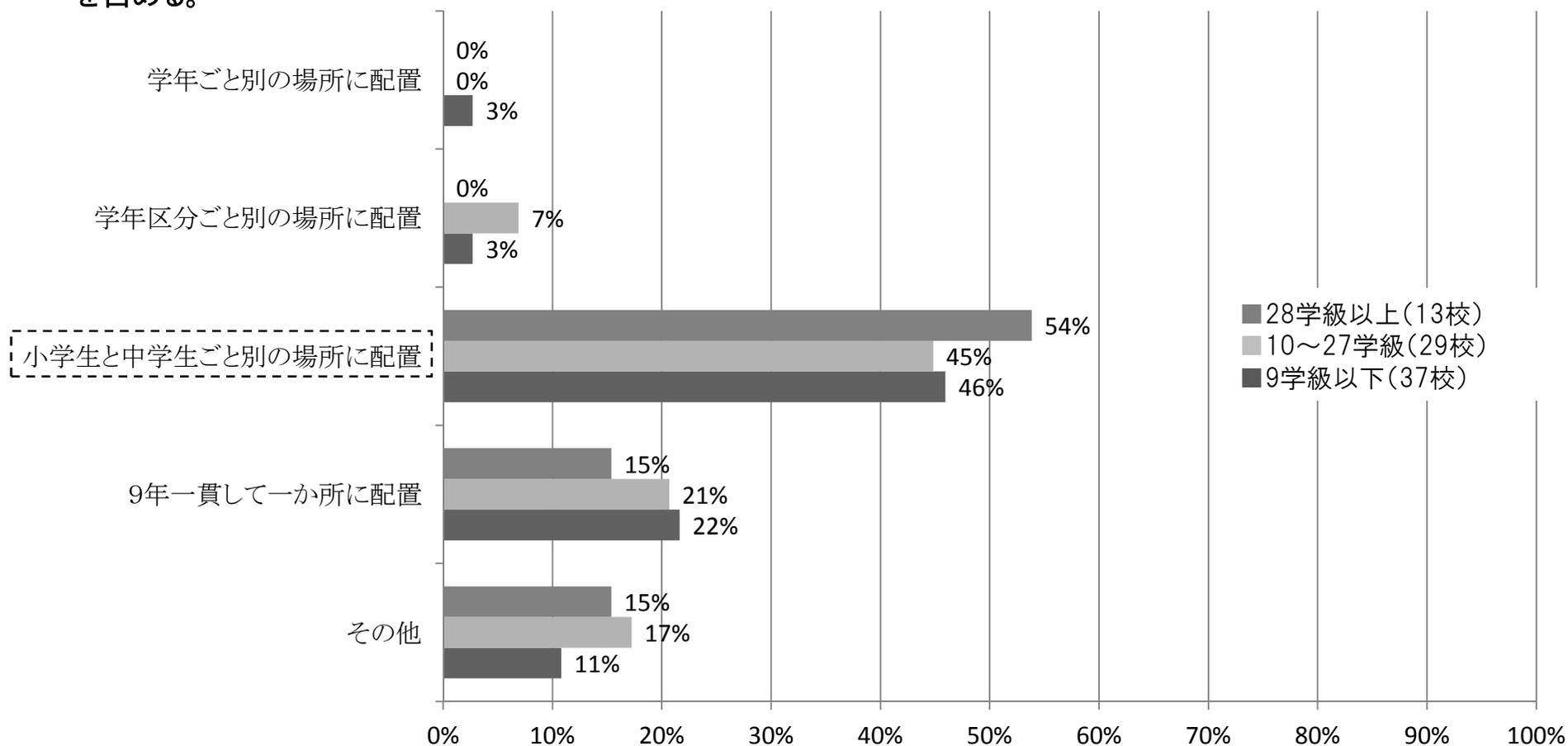
(その他) 少人数教室、国際教育室、多目的スペース、教師ステーション、渡り廊下、通学バス回転広場 等

【問8-4】 特別支援学級(教室)の配置計画

特別支援学級(教室)は、どのように配置していますか。

- 1 学年ごと別の場所に配置
- 2 学年区分(ステージ)ごと別の場所に配置
- 3 小学校と中学校ごと別の場所に配置
- 4 9年間一貫して一か所に配置
- 5 その他

●特別支援学級(教室)の配置計画について、学校規模にかかわらず「小学校と中学校ごと別の場所の配置」が約5割を占める。



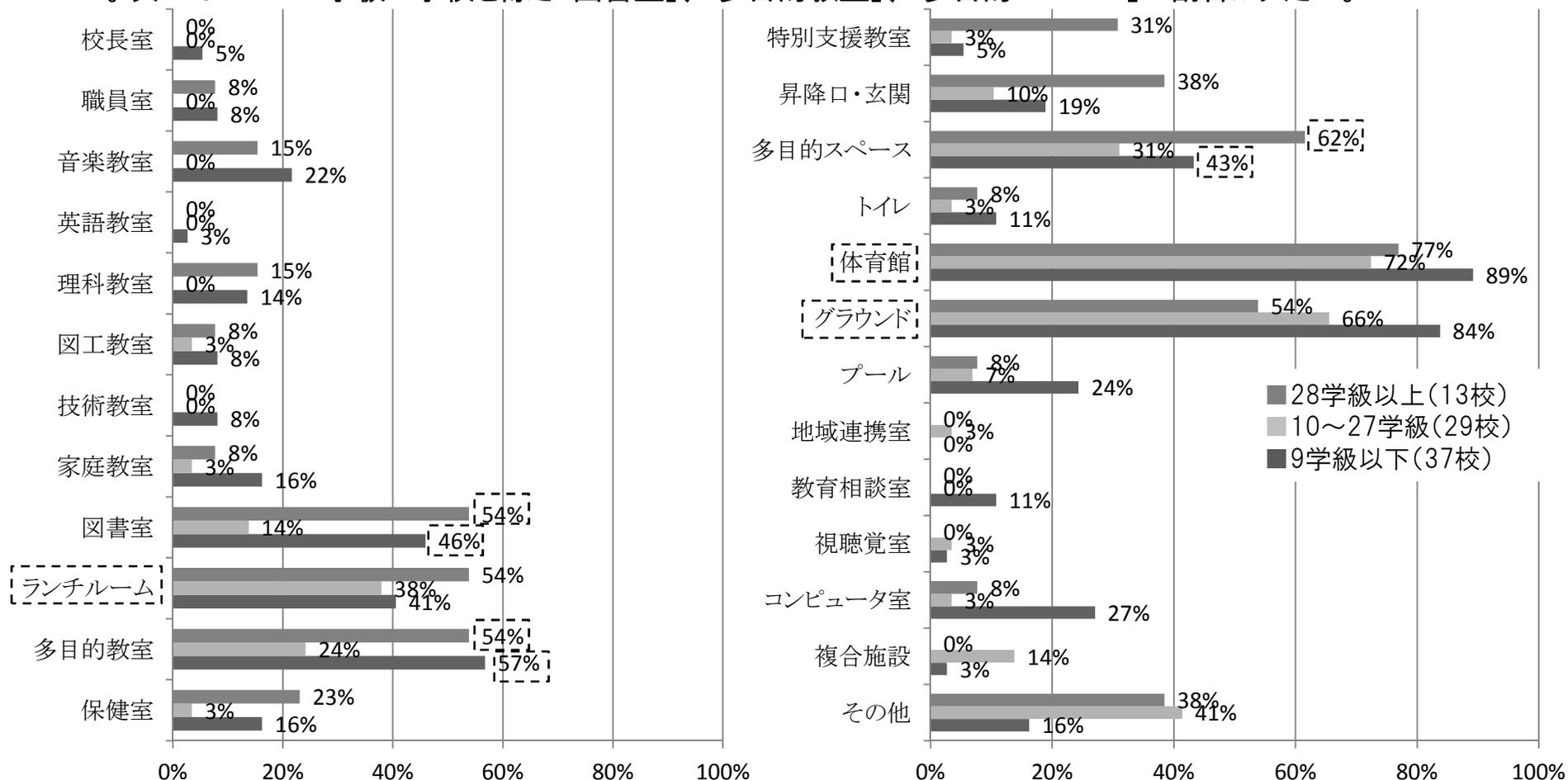
(その他) 障害種別に配置、小学校のみに配置、今は整備していない 等

【問8-5】異学年交流を行う施設(室)

小・中異学年交流は、主にどの施設で行われますか。(複数回答可)

- 1 校長室 2 職員室 3 音楽教室 4 英語教室 5 理科教室 6 図工教室 7 技術教室 8 家庭教室
 9 図書室 10 ランチルーム 11 多目的教室 12 保健室 13 特別支援教室 14 昇降口・玄関
 15 多目的スペース 16 トイレ 17 体育館 18 グラウンド 19 プール 20 地域連携室 21 教育相談室
 22 視聴覚室 23 コンピュータ室 24 複合施設(複合施設名:地域図書館、文化ホールなど) 25 その他

●異学年交流を行う施設(室)について、学校規模のかかわらず「体育館」、「グラウンド」、「ランチルーム」の割合が大きい。次いで10～27学級の学校を除き「図書室」、「多目的教室」、「多目的スペース」の割合が大きい。

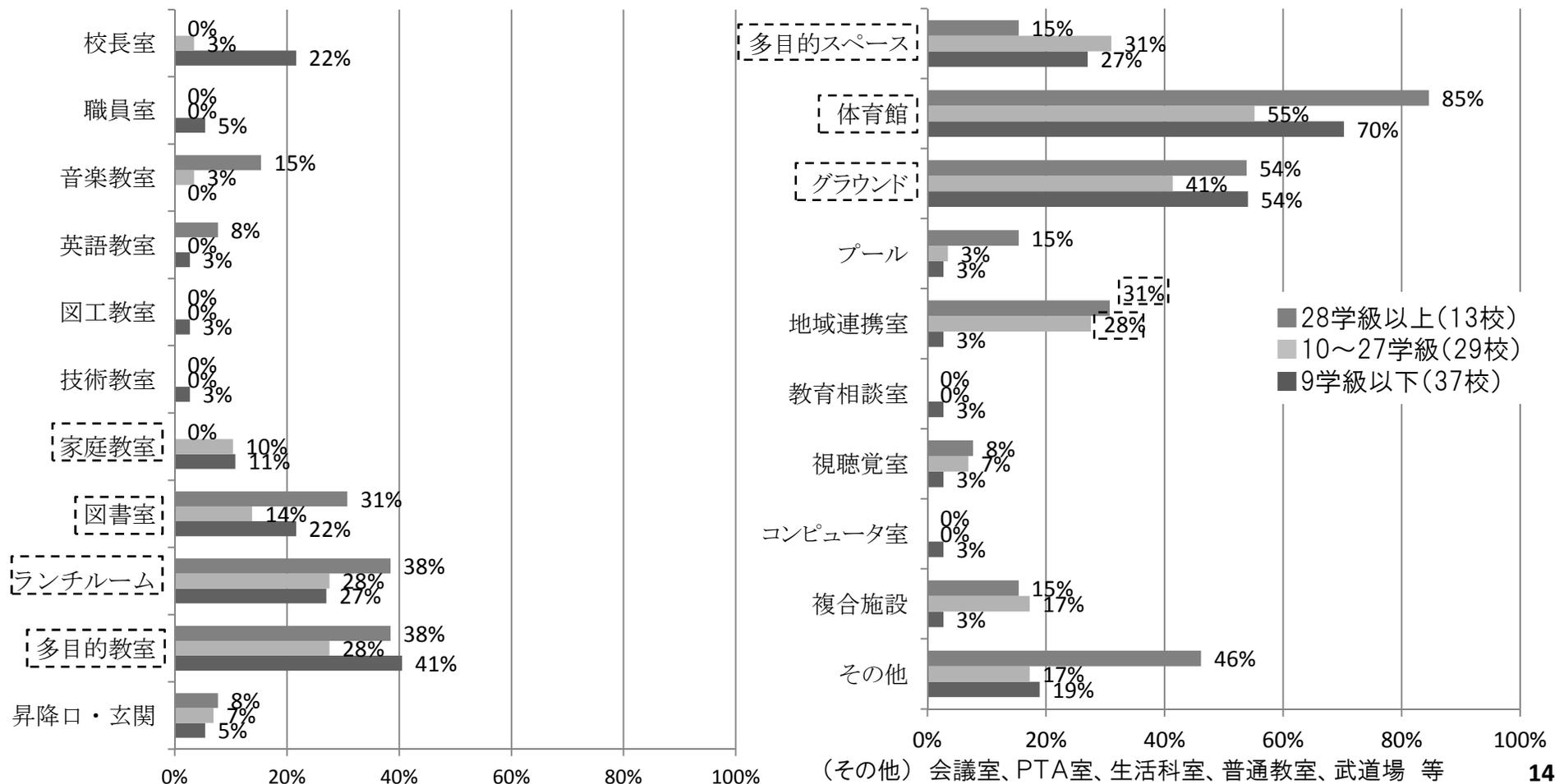


【問8-7】 地域交流を行う施設(室)

地域・保護者の方々と児童生徒・教員等との交流、地域・保護者の方々同士の交流は、主にどの施設で行われていますか。(複数回答可)

- 1 校長室 2 職員室 3 音楽教室 4 英語教室 5 理科教室 6 図工教室 7 技術教室 8 家庭教室
 9 図書室 10 ランチルーム 11 多目的教室 12 保健室 13 特別支援教室 14 昇降口・玄関
 15 多目的スペース 16 体育館 17 グラウンド 18 プール 19 地域連携室 20 教育相談室
 21 視聴覚室 22 コンピュータ室 23 複合施設(複合施設名:地域図書館、文化ホールなど) 24 その他

●地域交流を行う施設(室)について、学校規模のかかわらず「体育館」、「グラウンド」の割合が大きい。次いで「ランチルーム」、「多目的教室」、「多目的スペース」、「図書室」の割合が大きく、「家庭教室」は他の特別教室と比べて割合が大きい。「地域連携室」は、10～27学級及び28学級以上の学校で約3割を占める。



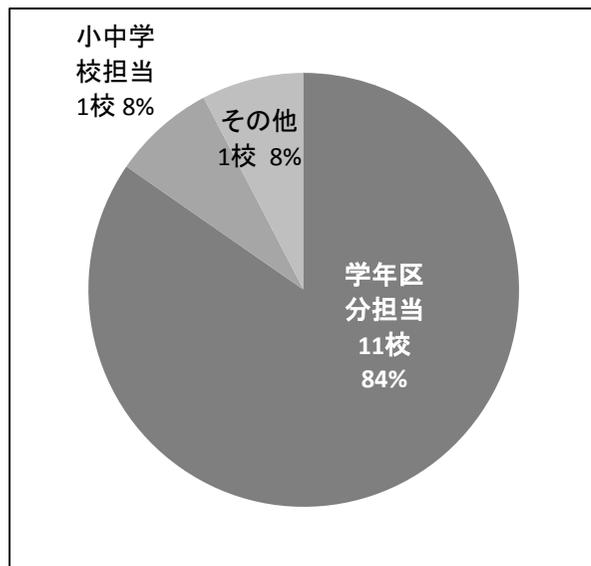
【問9】 職員室の座席配置

職員室の座席は、どのように配置していますか。

- 1 校務分掌をもとに配置
- 2 学年区分(ステージ)担当ごとに配置
- 3 小学校、中学校担当ごとに配置
- 4 教科担当ごとに配置
- 5 その他

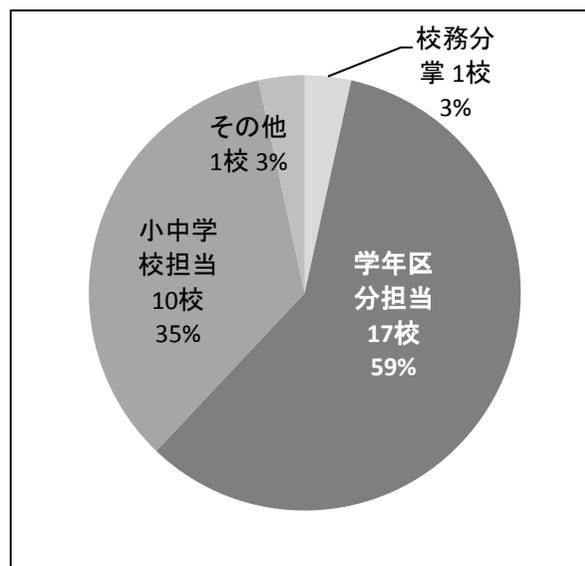
●職員室の座席配置について、学校規模が大きくなるにつれて「学年区分担当」の割合が大きくなる。

28学級以上(13校)



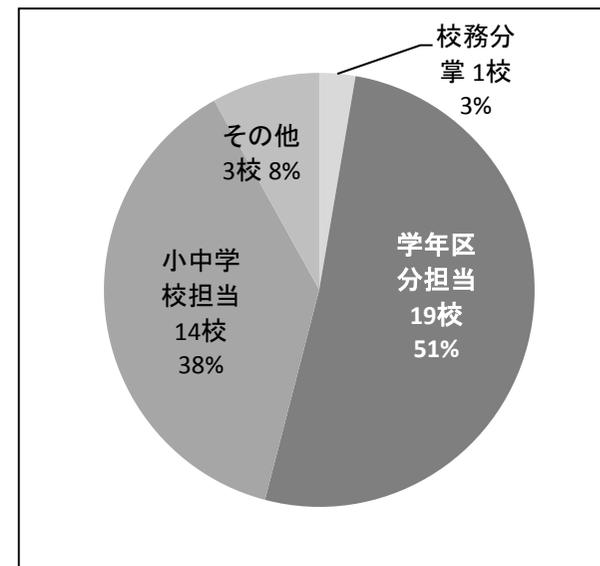
(その他)「小・中それぞれの職員室」

10～27学級(29校)



(その他)「小・中それぞれの職員室」

9学級以下(37校)



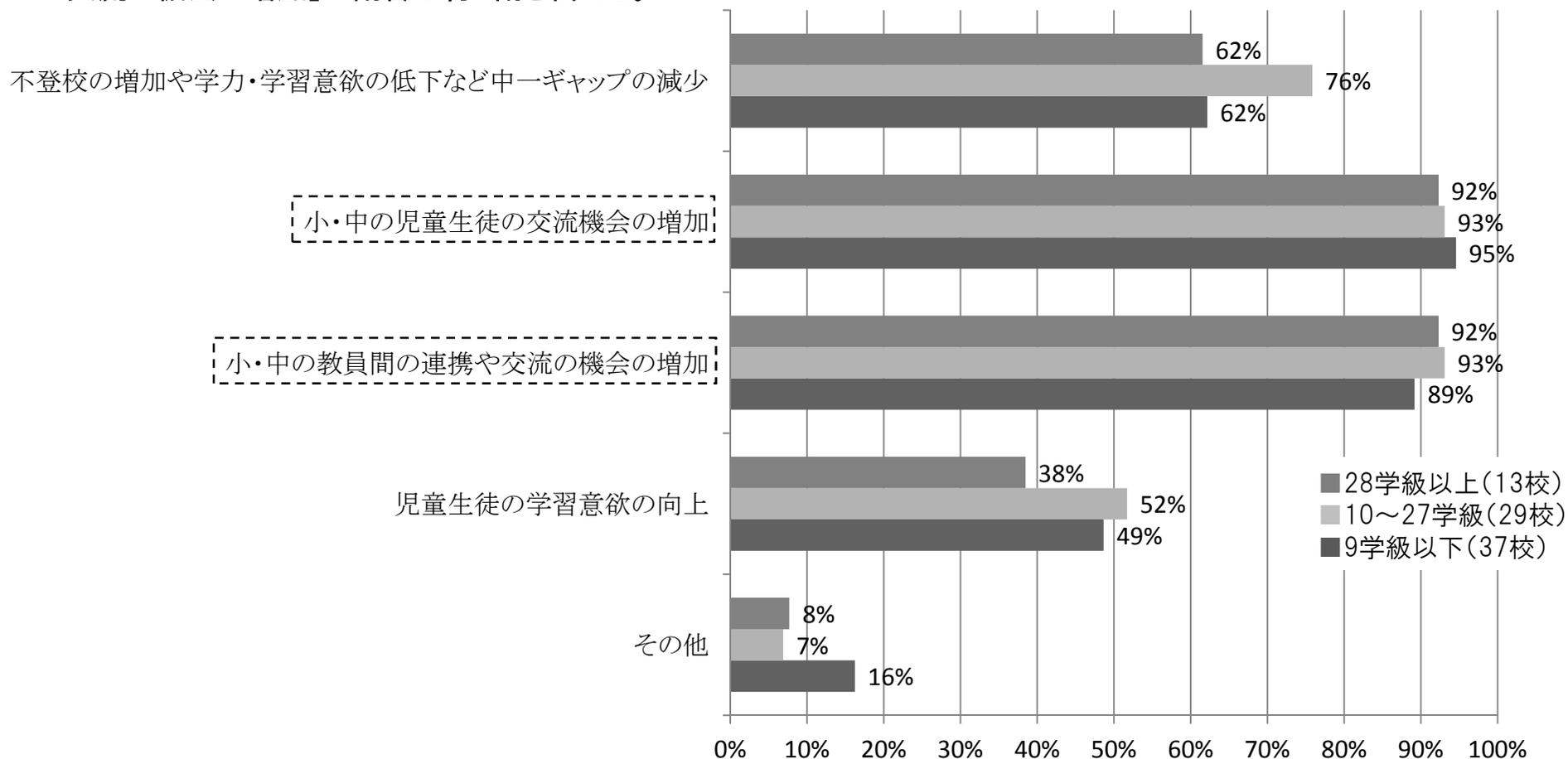
(その他)「小・中それぞれの職員室」3校

【問10】 施設一体型校舎の教育上の効果

施設一体型校舎としたことによる教育上の効果についてお答えください。(複数回答可)

- 1 不登校の増加や学力・学習意欲の低下など中一ギャップの減少
- 2 小・中の児童生徒の交流機会の増加
- 3 小・中の教員間の連携や交流の機会の増加
- 4 児童生徒の学習意欲の向上
- 5 その他

●教育上の効果について、学校規模にかかわらず「小・中の児童生徒の交流機会の増加」、「小・中の教員間の連携や交流の機会の増加」の割合が約9割を占める。



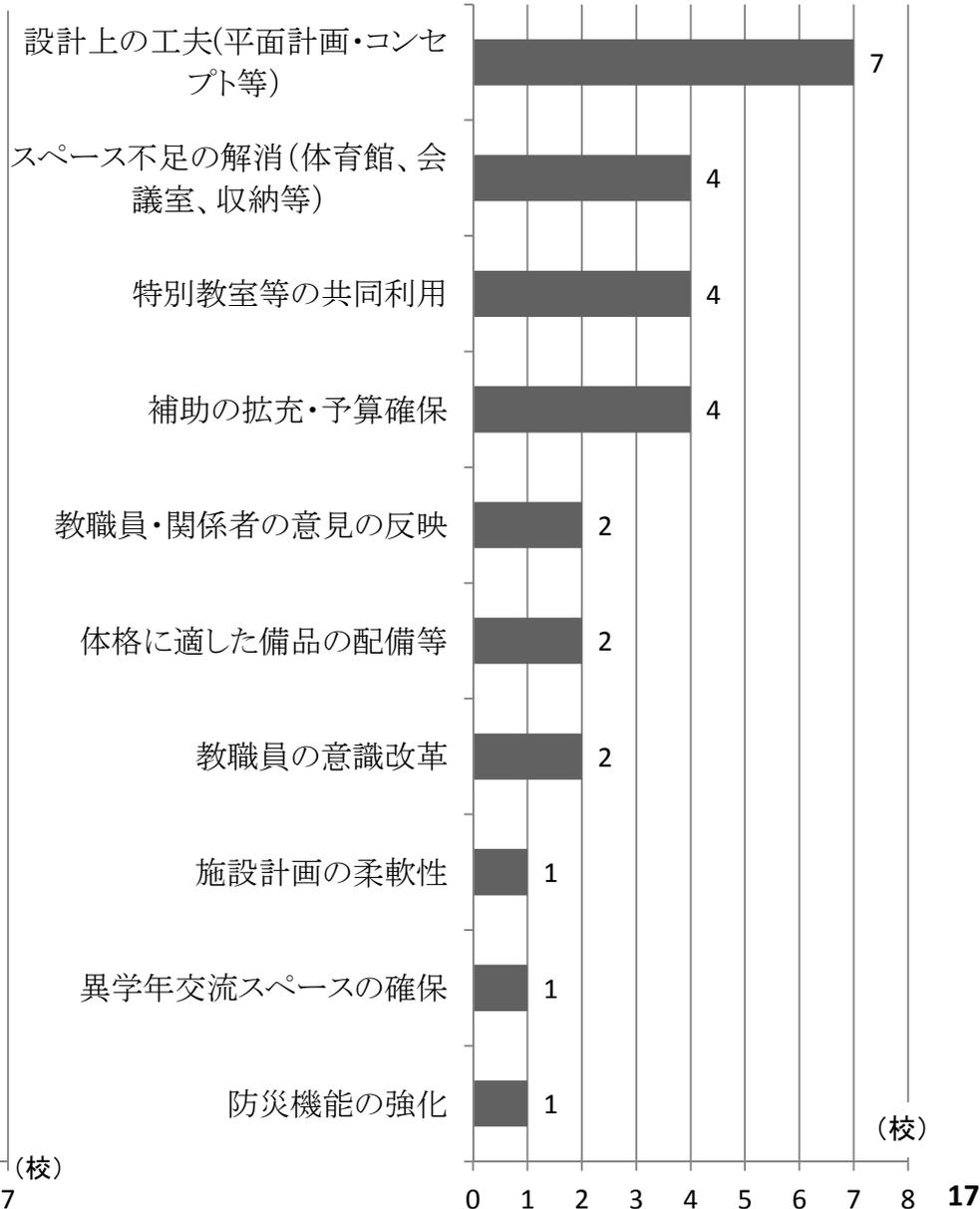
(その他) 指導力向上、教職員の他校種への理解向上、子供の心情面での成長等

【問11-2】 今後の施設一体型校舎を整備する際の課題(自由記述)

(※記述内容を項目ごとに分類・集計)

28学級以上(13校中回答のあった13校)

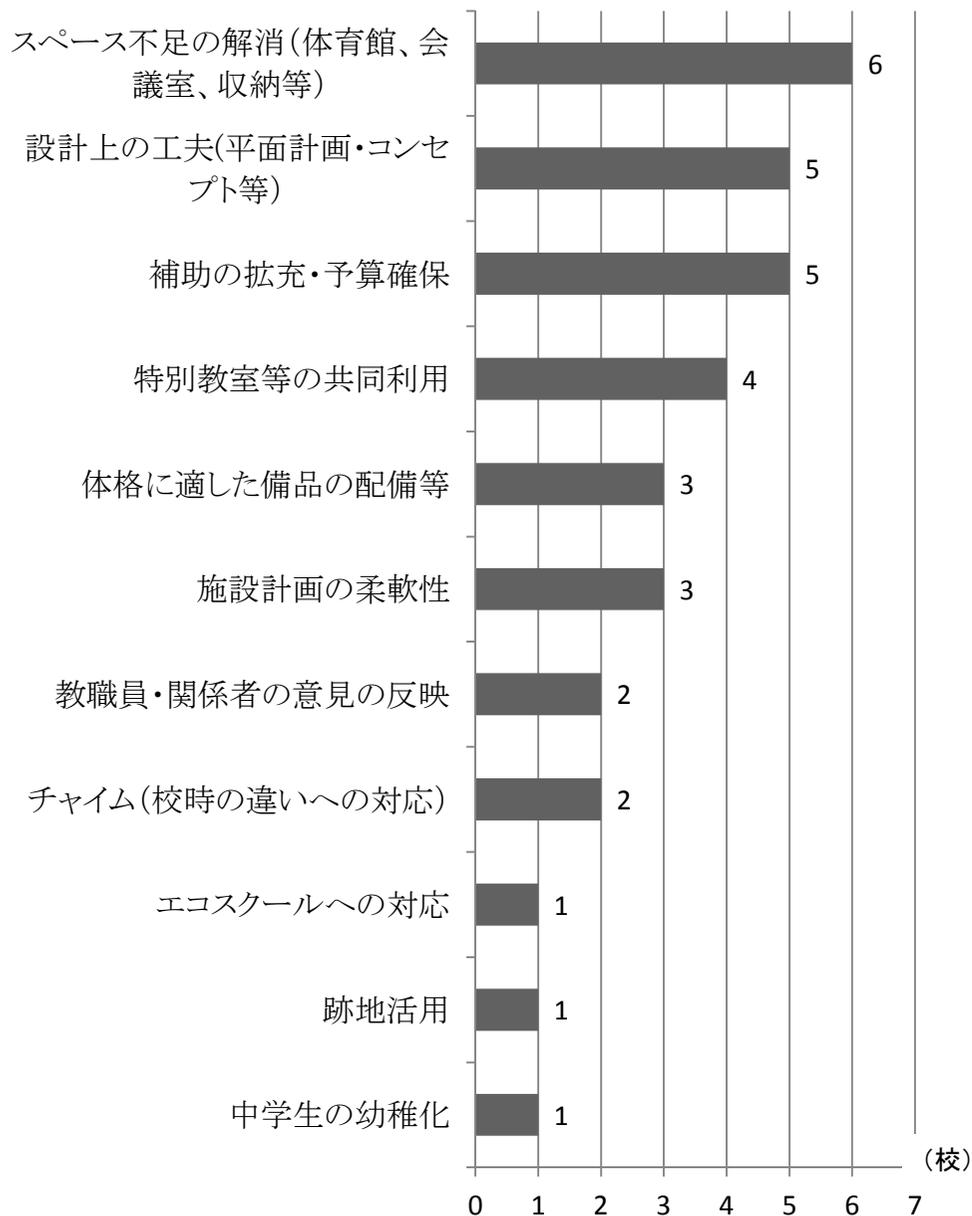
10~27学級(29校中回答のあった22校)



【問11-2】 今後の施設一体型校舎を整備する際の課題(自由記述)

(※記述内容を項目ごとに分類・集計)

9学級以下(37校中回答のあった27校)



回答の多い項目の記述内容

○設計上の工夫(平面計画・コンセプト等)

- ・学年区分を意識できる教室配置にすべき
- ・学年間の風通しがよくなるよう教室を配置すべき
- ・小中の違いへの配慮が必要(トイレの場所等)
- ・授業時間差により混乱が生じない動線計画の設定
- ・9年間の教育理念実現のための施設にすべき 等

○スペース不足の解消(体育館、会議室、収納等)

- ・小中で一つの特別教室を利用するため、教材等の備品保管スペースの確保が必要
- ・職員室に話合いのできるスペースが必要
- ・指導内容について打合せを行う会議室等の確保
- ・中学生のクラブ活動により、小学生が放課後に体育館を使えない 等

○体格に適した備品の配備等

- ・黒板の高さなど、児童生徒の成長に対応した設備
- ・手洗いシンクやロッカーの高さなど、それぞれの学年区分に応じた設備の配備 等